



MT. KAIMON PHOTO BOOK

360度をぐるり。地球の丸さを実感できる

開聞岳が誕生したのは約3,700年前の縄文時代後期。

新しい火山で山体の侵食が進んでおらず、美しい円錐形を保っている。

晴れた日は、924mの山頂から遠く霧島連山や屋久島まで見渡させる。

(登山の目安：登り／3時間、下り／2時間30分)



高さこそ劣れ、これほど完璧な円錐形もなければ、
全身を海中に乗り出した、これほど卓抜な構造も
あるまい。名山としてあげるのに私は躊躇しない。
深田久弥



「けだし天下の絶景なり」

伊能 忠敬

南薩摩のシンボル。別名「薩摩富士」

古くは「海門山」とも称され、航海の目印として、海上守護の神として信仰を集めてきた。戦時中には、知覧から飛び立った特攻隊員が、本土最後の景色として惜しみつつ眺めたとされている。

南薩摩の全域から眺めることができる、文字どおりのシンボル。



噴火の歴史が育んだ神秘にふれる

シンメトリーな姿が美しい開聞岳は、これまでの噴火による噴出物や溶岩が積み重なってできた成層火山で、少なくとも12回噴火している。開聞岳が、周囲の金峰山（南さつま市）や硫黄島（三島村）とけんかをしていたという昔話が残っており、激しく噴火していた歴史を物語っている。最近では、874年3月25日に噴火した記録が「日本三大実録（編者：菅原道真等）」に残る。





自然と一体になれる、開放感

霧島錦江湾国立公園に指定される開間岳の麓は、本物のアウトドア空間。登山客の拠点として、キャンプ・BBQ・アクティビティの人気スポットとして、多くの方に愛されている。

